

令和 6 年 1 0 月 1 日から令和 7 年 3 月 3 1 日までの財政の状況

(1) 財政の動向

令和 6 年 9 月末の予算現額は、前年度からの繰越額を含めると 9 0 5 億 8, 5 1 2 万 3 千円となっており、令和 6 年 1 0 月の専決処分による衆議院議員解散総選挙に関連する経費や令和 6 年流山市第 4 回定例会に係る保育園等の運営に係る委託経費、障害児通所給付費、子ども医療費などの扶助費、令和 7 年 1 月の専決処分による低所得世帯に 3 万円とその世帯の子どもに 2 万円を支給するための経費や燃料価格高騰の影響により厳しい経営環境下にある運送事業者等を支援するための経費、令和 7 年流山市第 1 回定例会に係る国の令和 6 年度補正予算第 1 号を活用した小中学校の校舎改修などに係る経費などをそれぞれ計上したことなどにより、令和 7 年 3 月末の予算現額は、9 4 9 億 4, 5 1 7 万 8 千円となっている。

下期における予算現額を前年の 3 月末現在のものと比較すると、歳入では、市野谷小学校及び南流山第二小学校の開校、南流山中学校の移転事業などが完了したことにより、国庫支出金が 3 0 億 5 8 7 万 2 千円、市債が 3 1 億 9, 4 3 0 万円減額となった。

また、歳出においても、小中学校の開校に関する事業が完了したことなどにより、教育費が 1 0 3 億 7, 0 2 3 万 5 千円減額となっている。

なお、一般会計と特別会計の令和 7 年 3 月末現在の執行状況は (3) 収入及び支出の概況のとおりである。

(2) 市長の財政方針

本市は、つくばエクスプレス沿線自治体の中でも、特に子育て世代から選ばれるまちとなり、人口は顕著に増加した。つくばエクスプレスが開通した約 2 0 年前と比較すると、総人口は約 4 割増加し、未就学児と小学生はそれぞれ約 8 割増加、中学生は約 5 割増加した。

一方で、つくばエクスプレス沿線の土地区画整理事業は、現在整備が進められている運動公園周辺地区を除き概ね完了し、人口増加のペースは緩やかになってきていることから、将来にわたり人口の減りにくいまちづくりを進めることが一段と重要になっている。

そのためには、市の魅力をより高めるまちづくりを進め、ブラン

ディングを一層推進していく必要がある。「都心から一番近い森のまち」「母になるなら、流山市。」「父になるなら、流山市。」「市民の知恵と力が活きるまち」などのブランド力を強化しながら、市外の方には「流山市に住んでみたい」、市民の方には「住み続けたい」と思っていただけのまちづくりに取り組んでいく。

また、依然として資材等の物価や人件費が高騰し続ける中、事業の内容及び優先順位の見直しを行うなど、歳出削減を行い、職員の採用が困難な状況を理解し、自治体DXの積極的な推進により業務の効率化と市民の利便性の向上を図るほか、補助金などの財源を最大限確保するなど限られた財源を効率的かつ効果的に活用し、健全財政維持に努め、全職員が合理的かつ効率的な事務執行を心掛けていく。